

ボーイング737-8 および -10型機に機内Wi-Fiサービスを導入 ～Intelsat社製の最新鋭アンテナを使用し、快適なインターネット環境をお届けします～



スカイマーク株式会社(本社:東京都大田区、代表取締役社長執行役員:本橋^{もとほし}学^{まなぶ})は、導入予定のボーイング737-8 および -10 型機に、機内Wi-Fiサービスを無償で提供することを決定し、衛星通信技術のリーディングカンパニーであるIntelsat社(米国、CEO:David Wajsglas)と、ESA(Electronic Steering Array/電子走査アレイ)アンテナを使用した機内Wi-Fiシステムの導入に関する契約を締結しました。

Intelsat社製のESAアンテナは、従来型の2Kuアンテナと比較して薄型・軽量化されていることから、機体の空気抵抗の低減などにより運航コストを抑制できます。また、低軌道(LEO)^{※1}衛星と静止軌道(GEO)^{※2}衛星の両方を使用するため、従来型よりも高速で、安定度の高いインターネットアクセスが可能です。

なお、新たな機内Wi-Fiサービスの詳細については、決まり次第あらためて発表します。

※1 地球から約160～2,000km上空の軌道 ※2 地球から約36,000km上空の軌道

当社は、安全の確保を最優先に、シンプルで温かく誠実なサービスと快適な空間をお客様に提供してまいりました。今後も、お客様の利便性向上に向け、最新技術の積極的な導入を図り、より快適で魅力的な空の旅を提供してまいります。

Intelsat社について <https://www.intelsat.com/newsroom/>

Intelsat社は、1964年に設立された世界有数の衛星通信事業者です。航空業界をはじめとする多岐にわたる分野において高品質な通信サービスを提供しています。特に、航空機向けの機内インターネットサービスやリモートエリアでの通信ソリューションにおいて、業界をリードする企業として知られています。

スカイマークについて www.skymark.co.jp/

スカイマークは、1998年9月19日に羽田＝福岡線で就航した航空会社です。日本の航空業界における規制緩和により誕生しました。機材はBoeing737-800型機(177席)を29機使用し、国内12空港24路線※季節定期便を含むを運航しています。安全確保を前提に、高い運航品質とシンプルで心のこもったサービスを身近な運賃で提供する独自のビジネスモデルを追求し、公益財団法人日本生産性本部サービス産業生産性協議会が公表するJCSI(日本版顧客満足度指数)調査では、新幹線を含む国内長距離交通部門における「顧客満足第1位」を、2020年度、2022年度、2023年度および2024年度の4度にわたり獲得しています。

スカイマーク品質。



以上